

平成21年度
市民活動支援事業

成果報告書



霧島市

はじめに

少子化や高齢化社会への変化に伴い、市民のニーズもライフスタイルも多様化しており、行政サービスの肥大化とともに、行政だけで対応することは量的にも質的にも困難な状況であります。

そこで、市民と行政が対等のパートナーとして、公共的課題の解決に向けて共に考え、協力して行動するという、共生・協働が必要とされるようになりました。

本市においても、このような環境の変化に的確に対応し、市民と行政、あるいは市民同士が相互に信頼関係を築き、それぞれの特性や個性を活かしながら連携・協力し、共生・協働によるまちづくりを推進していくため、平成22年3月には、霧島市共生・協働に関する指針を策定したところです。

この指針においても、地域団体・市民活動団体は、地域のさまざまな課題について、個々の住民ニーズをより身近にとらえ、独自の判断で、的確かつ柔軟にサービスを提供する公共の担い手として期待されています。

現在、本市内では、さまざまな市民活動団体が、地域の課題の解決やよりよい市民生活の実現のために、自主的・自立的に活動を行っています。

本市では、このような市民活動を促進し、共生・協働のまちづくりを推進するため、市民活動団体が行う公益的・公共的な活動に対して、その経費の一部を補助する制度を平成20年度に創設しました。

2年目となる平成21年度は、19団体19事業の応募がありました。地域社会における必要性(課題解決性)、公益性、先駆性・創造性等の審査基準に基づいて、学識経験者、市民活動関係者、公募委員等で構成する「霧島市市民活動促進委員会」による審査(一次審査：書類審査、二次審査：プレゼンテーション審査)を行った結果、17団体17事業を採択し、補助を行いました。

この成果報告書は、17団体の事業の活動内容や成果等を取りまとめたものですが、保健・医療・福祉、まちづくり、環境保全、子どもの健全育成など多岐にわたる意欲的な事業が行われており、本市の市民活動が幅広いものであると感じられます。

この支援事業を契機に、より一層市民活動が活発となり、「共生・協働のまちづくり」が霧島市全体に広がることを期待されます。

目 次

◆ 平成21年度霧島市市民活動支援事業 実施団体成果報告

1	特定非営利活動法人 霧島食育研究会	1
2	霧島市児童クラブ連絡会	3
3	水の会	5
4	きりしま・国分子ども劇場	7
5	大隅横川駅保存活用実行委員会	9
6	特定非営利活動法人 ワーカーズコープ 国分支部	11
7	特定非営利活動法人 霧島サンバイオ	13
8	霧島ふるさと命の森をつくる会	15
9	はやと創造舞台	17
10	特定非営利活動法人 Ryouiku Circle はなはな	19
11	特定非営利活動法人 NPOつくしの家	21
12	特定非営利活動法人 霧島市への移住応援協会	23
13	ウィメンズ隼人	25
14	ふるさと霧島夏祭り'09 実行委員会	27
15	特定非営利活動法人 NPOしきね	29
16	霧島心肺蘇生の会	31
17	新現役の会 霧島支部	33

〈 参 考 〉

・ 平成21年度 霧島市市民活動支援事業募集要項（抜粋）	35
・ 平成21年度 霧島市市民活動支援事業応募・採択内訳	36
・ 平成21年度 霧島市市民活動支援事業 実施結果	37

地産地消－霧島地野菜活用食育事業

＜特定非営利活動法人 霧島食育研究会＞

事業費：933,261円

市補助金：420,000円

目的（背景・課題）

日本には食べ物があふれ、大人でも子どもでも、いつでもどこでもどんなものでも、お金さえあれば手に入れることができ、流通と農業技術の進歩により野菜や果物の旬は薄れ、また海外からの食品の輸入拡大で食糧自給率も低下の一途を辿っています。また、食卓には調理の簡単なインスタント食品や出来合いの惣菜が並ぶようになり、社会全体として「食育」の重要性が叫ばれています。

このような状況を踏まえ、早急に一人ひとりが現在の食生活をかえりみ、生活の質を高め、望ましい食生活を営む力をつける必要があります。そのために、①適切な食品を選び、調理するための知識・技術の習得、②「食事が楽しい!」と感じることのできる環境づくり、③旬の食べ物の味の違いや、素材の特徴、だしの風味がわかる味の教育、④食品の生産から消費までの社会の仕組みや環境問題の中で、「人が食べて生きていく」という意味を知る教育など、「豊かな食体験」とそれを促す教育が必要です。

本研究会のこれまでの地域に根ざした食育推進活動で得たノウハウを活用し、地元農家と連携し、霧島の地野菜・山菜等の食材を使い、小・中学生及び成人対象に「霧島地野菜料理教室」を開催し、その後レシピ集を作成し販売することで、きめ細やかな食育体験の提供と家庭への食育及び地域ぐるみの食育活動の啓発を図ります。

また、事業内容やレシピを本研究会HPへの掲載や新聞・テレビ等のマスコミに発信することで、広く県内外に霧島の食文化の豊かさをPRしていきます。

事業内容

○霧島地野菜料理教室の開催（全5回）

① 平成21年8月25日(水)

場所：霧島保健福祉センター（12名参加）
内容：とうもろこしご飯、へちまみそいため、なすそうめん、にがうり佃煮、サトイモの揚げ煮

② 平成21年9月30日(水)

場所：霧島保健福祉センター（12名参加）
内容：粟と粟のごはん、地鶏の焼酎煮、サトイモ団子のあんかけ、揚げそば

③ 平成21年10月21日(水)

場所：霧島保健福祉センター（12名参加）
内容：芋こんにゃく、きいこん、そばずい、むかごご飯、しいたけのしんじょ揚げ、地粉のおやき

④ 平成21年12月16日(水)

場所：霧島保健福祉センター（14名参加）
内容：あわんなっと、芋こんにゃく

⑤ 平成22年1月27日(水)

場所：霧島保健福祉センター（16名参加）
内容：横川大根を使った大根餅、ヘルシーグラタン、ピリ辛煮など

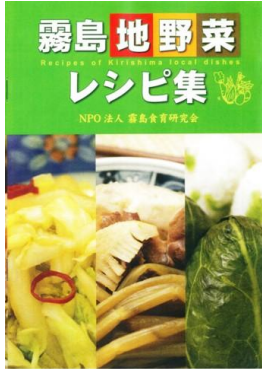


(霧島地野菜料理教室)

○霧島地野菜活用郷土料理レシピ集の作成・配布及び利用の促進

霧島地野菜料理教室でのレシピ集を作成し、販

売しました。また、霧島食育研究会のHPにレシピを掲載し、さらに新聞・テレビ・書籍等へ事業内容の情報提供することで、霧島の食文化を全国発信することができました。



(霧島地野菜レシピ集)



事業の成果

【霧島地野菜料理教室】

料理教室を5回開催し、66名の参加者がありました。霧島の季節ごとの地野菜を使って調理することで、身近な食材の利用法や「地産地消」、「身土不二」への理解が深まりました。

【霧島地野菜レシピ集】

霧島地野菜を活用した料理教室でのレシピ集を作成・頒布を行い、広く霧島の郷土料理・食文化・先人の知恵などを見直し、地域に根ざした食文化を伝えることができました。また、販売分は、600冊を完売しました。

また、レシピを霧島食育研究会のHPに掲載し、また新聞・テレビ等で活動内容等を紹介してもらうことによって、霧島の食文化を全国へ情報発信し、地域の食文化への関心を高めることができた、と思います。

【霧島地野菜ワークショップの開催】

また、11月に開催した霧島食育研究会主催の「霧島・食の文化祭」においても、霧島の地野菜等を紹介するワークショップを実施し、地域の食文化への関心をさらに高め、地域に根ざした食育活動を広めることができました。

自己評価

1. 事業効果
期待していた以上の効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
特にありません。
3. 予算執行
多少の変更がありました。
レシピ集の作成人件費が不足しました。
4. 今後の展望
今後も、霧島の「人・物・情報」を基にした、霧島独自の食育活動を展開し、食から霧島の良さを再評価する地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人

霧島食育研究会

〈代表者〉 理事長 千葉 しのぶ

〈設立日〉 平成17年9月15日

〈会員数〉 13人

〈主な活動内容〉

- ・「霧島・食の文化祭」(年1回開催)
- ・霧島の子どもと大人のための食育プログラム
- ・「霧島食べ物伝承塾」の開催
- ・「霧島・畑んがっこ」子ども組・大人組
- ・大人のための食育セミナー
- ・棚田食育士養成食育実践講座開講
- ・南日本新聞「鹿児島食育レシピ」掲載

〈連絡先〉

所在地 〒899-4201

霧島市霧島田口 2608-5

TEL 0995-57-0215 (FAX 兼用)

E-mail shinobuharry@yahoo.co.jp

きりしま学童こどもまつり

<霧島市児童クラブ連絡会>

事業費：544,658円

市補助金：300,000円

目的（背景・課題）

霧島市内の各児童クラブの子どもたちを一堂に集め、スポーツ・レクレーションを通じて、楽しさを共有することで、異なった地域間や異年齢の交流が生まれ、子ども同士のつながりが確かなものとなるようにしたい、と考えました。

また、各児童クラブの子どもたちの親睦交流と併せて、保護者間の親睦交流も図りたいとも思いました。

事業内容

○きりしま学童こどもまつり

平成21年11月28日(土) 9:00~14:00

場 所：霧島市「牧園アリーナ」

主催：きりしま学童こどもまつり実行委員会

共催：霧島市 霧島市教育委員会

後援：霧島市民生委員児童委員協議会連合会

参加者：児童 228名

保護者 85名

指導員・民生委員ほか 46名

スタッフ 10名

合 計 369名

今回は、インフルエンザの影響もあって、約370名に激減しての開催となりましたが、保護者、指導員、学童関係者の熱のこもった参加のもと、牧園アリーナで開催することができました。

福永副市長、阿多教育部長をはじめ、行政関係者も参加いただき、言葉送りじゃんけんゲームに始まり、学年毎のドッジボール大会、保護者や指導員も交えてのドッジボールと、異年齢交流も含めて楽しい一日となりました。

5月から11月までの間、実行委員会や役員会を10回開いて協議を行い、レクレーションのリハーサルや指導員の研修会も実施し、その準備を重ねました。



きりしま学童まつり（牧園アリーナ）

事業の成果

各児童クラブ連絡会参加の子どもたちが一堂に会しレクレーションを通じて、交流できたことが一番の収穫でありました。

また、経営者を含めた指導員もお互いの学童保育のあり方についての再確認ができたことと、学童保育事業を広く市民にアピールすることができたと思います。

そして、講師の好意により、指導員のレクレーション研修会を実施できたことは、とても良い副産物の収穫でありました。講師から「こうした取り組みはとても大事なことであり、これを支援してくれる霧島市に敬服した。」と高い評価をいただきました。

また、指導員たちが、市の支援に感謝してくれたことは、大きな力になると確信しました。

自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

もっと早い時期に開催日を決定して各児童クラブの年間計画に入れるべきであったと思います。

レクレーションへの保護者の参加が少なく、保護者同士の交流の場が持てませんでした。

また、開催時期がインフルエンザの流行と重なったことと、当日の日程にもっと余裕がほしかった、と感じました。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できました。

4. 今後の展望

通年の「学童まつり」として定着するよう取り組み、これを通じて、地域への学童保育の認知度を高める取り組みへつなげていきたいと思えます。

学童保育に通う子どもたちだけでなく、安心・安全の子どもたちの放課後を地域全体で見守っていく関係（支え合いのネットワーク）を作っていきたいと思えます。



団体情報

〈団体名〉霧島市児童クラブ連絡会

〈代表者〉会長 加来 宗暁

〈設立日〉平成19年2月4日

〈会員数〉600人（指導員数と児童数）

〈主な活動内容〉

- ・市内の児童クラブ・学童保育の実態についての情報収集・連絡活動
- ・子どもたち・指導員・保護者の交流活動

〈連絡先〉

所在地 〒899-4301

霧島市国分重久 2105-1

青葉児童クラブ内

TEL 0995-45-7800 (FAX 兼用)

E-mail a-lopas@po.synapse.ne.jp

竹山ダム周辺の環境整備と文化活動

<水の会>

事業費：364,322円

市補助金：200,000円

目的（背景・課題）

郷土史研究を重ねながら、農的生活の充実を期するとき、水への理解・感謝を深めることは大切であると考えます。

年数回の清掃作業等で美的感覚を養い、地球環境を守るための科学・哲学を論じ合う、文化活動の実践道場として「竹山水辺の里」(ふれあい広場)を整備し、関係諸団体とも連携をとりながら、まちづくり活動を展開していきたいと思えます。

事業内容

○水環境整備（竹山水辺の里ふれあい広場整備）

網掛川の上流（竹山集落）の水辺に広場（約10a）を整備しました。看板、国旗掲揚台等を設置し、こいのぼり用の台も工夫を凝らし、完成時には記念植樹も行いました。

また、竹山ダム周辺の水辺清掃作業は、会員が随時行ったり、事業スケジュールの中で、併せてゴミ拾い等も行いました。

○「水を考える」講演会の開催

「竹山水辺の里ふれあい広場」の完成を記念して、十三塚原土地改良区と連携し、竹山ダム周辺の山城跡を巡る「中世山城探訪」として実施しました。

期日：平成22年2月17日（水）

場所：水辺の里、竹山公民館

参加者：50名

・第一部 講話

講師：元鹿児島短期大学学長 三木 靖

テーマ：山城をめぐる

・第二部 山城探訪

竹山城・高松城巡り

・第三部 山城・水談義

講師：元鹿児島短期大学学長 三木 靖

テーマ：山城とその水源

水の会事業 水辺環境整備記録写真



広場付近全景



広場遊び場作り 工事の様子 2010.8.23撮影



ふれあい広場看板



イベント広場 遊び場 完成写真 2010.3.31撮影

事業の成果

竹山ダム周辺の水が市民生活や農業振興に大変役立っていることを、参加者はもとより地域住民も認識するようになり、水に対する理解や感謝の念が深まってきた、と考えます。

新聞社やテレビ局が取材に来るなど注目されたことから、集落活性化にも役立つ事業として、関係者や一般市民にも理解が得られるようになったものと思われまます。

山城探訪 (高松城 竹山城探訪) 10:30~12:30



自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

- ・「水辺の里」をさらに本格的に整備し、本事業を継続したいと思います。
- ・「水」という大自然の恩恵を理解するための研修は大切であり、地元溝辺地区を含めて今後さらに参加・協力者を増やしていきたいと思います。

3. 予算執行

〈多少の変更がありました。〉

広場整備に加えて、「中世山城探訪」という河川流域の文化財に注目した水環境研究を取り入れたため、探訪コースの設営作業費が必要になりました。

4. 今後の展望

河川流域全体を視野においた水辺清掃を続けます。さらに、ふるさとの歴史に注目し、例えば文化財「中世山城」研究やその保護につながる活動を盛り込んで実施していきたいと思います。

5. その他

水辺清掃の呼びかけを開始して4年目となり、年々参加者も増えてきて、仲間づくりが進展しています。地域住民はもとより、十三塚原畑総や空港関係者にも呼びかけ、さらに良い活動ができるよう発展させていきたいと考えます。

団体情報

〈団体名〉水の会

〈代表者〉二見 剛史

〈設立日〉昭和58年3月1日

〈会員数〉26人

〈主な活動内容〉

- ・竹山ダム周辺の環境整備
- ・中世山城探訪

〈連絡先〉

所在地 〒899-6405

霧島市溝辺町崎森 2731-5

TEL 0995-58-3878 (FAX 兼用)

子どもに関わる大人のための

コミュニケーションワークショップ事業 ＜きりしま・国分子ども劇場＞

事業費：300,129円
市補助金：150,000円

目的（背景・課題）

近年、子どもたちまつわる様々な不幸な事件が起きていますが、その背景として子どもたちの「コミュニケーション能力」の低下の問題が大きな要因の一つになっています。そして、それは子どもたちだけの問題ではなく、子どもたちに接する大人、子どもたちを指導する立場にある大人のコミュニケーション能力の低下も大きな問題です。本事業では、演劇的表現を利用したワークショップにより、子どもたちに向き合う大人のコミュニケーション能力向上を図り、そのことを通じて子どもたちを含めた地域住民の円滑なコミュニケーションづくりを目的とします。

事業内容

○子どもに関わる大人のためのコミュニケーションワークショップの開催

“子どもに関わる大人”という視点で、地域の母親・父親・教師・保育士など幅広い方々を対象に、インプロ（即興演劇）のトレーニング手法を用いた大人のコミュニケーション能力の向上を図ります。

- ① 平成21年8月7日(金)
場所：牧園農村活性化センター
参加者：16名（託児5名）
- ② 平成21年8月18日(火)
場所：溝辺コミュニティセンター
参加者：17名（託児4名）
- ③ 平成21年8月20日(木)
場所：福山活性化センター
参加者：16名（託児6名）
- ④ 平成21年9月18日(金)
場所：隼人体育館
参加者：24名（託児5名）

2009年度島市市民活動支援事業
子どもに関わる大人のための
コミュニケーションワークショップ

参加費 2,000円（一人一回）
主催 きりしま・国分子ども劇場
後援 島田市 島島市
お申し込み・お問い合わせ

8月7日(金) 13:00~15:30 牧園農村活性化センター
8月18日(火) 13:00~15:30 溝辺コミュニティセンター
8月20日(木) 19:00~21:30 福山活性化センター
9月18日(金) 19:00~21:30 隼人体育館*

*この日は他の日別

(募集チラシ)

【ワークショップの開催】

参加費 2,000円（一人一回）
主催 きりしま・国分子ども劇場
後援 島田市 島島市
お申し込み・お問い合わせ

事業の成果

コミュニケーション能力を高める方法としてインプロの方法があることを体験を通して理解してもらえたと思います。

講座の中で振り返りの体験を通し、自分の課題の発見ができました。また、コミュニケーションの大切さを楽しく実感することにより、知り合いへの誘いにつながって、大人集団の変化が期待されるようです。

このことにより、子どものコミュニケーション能力の向上へ結びつくものと考えております。

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

- ・ 市内の学校関係に通知をしましたが、全員への周知にはつながらなかったため、今後の広報手段を検討する必要があります。
- ・ 学校以外の大人へ知らせる方法も含めて、広報の方法を検討して、もっと多くの人に知らせる必要があると思います。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できました。

4. 今後の展望

より多くの人にインプロを体験してもらうことと同時に、地域での研修の場として定例化するようにしていきたいと考えています。



(コミュニケーションワークショップ)

団体情報

〈団体名〉 きりしま・国分子ども劇場

〈代表者〉 酒本 恵

〈設立日〉 平成 19 年 6 月 24 日

〈会員数〉 48 人

〈主な活動内容〉

- ・ 鹿児島県子ども芸術祭典
- ・ 子どもに関わる大人のためのコミュニケーションワークショップ
- ・ あそび会等

〈連絡先〉

所在地 〒899-6603

霧島市牧園町高千穂 3584-36

TEL 0995-64-4115 (FAX 兼用)

大隅横川駅活性化事業

<大隅横川駅保存活用実行委員会>

事業費：365,180円

市補助金：182,000円

目的（背景・課題）

昭和20年7月30日、大隅横川駅に停車していた貨車を米軍機が襲撃。その際の機銃掃射の爪跡が駅舎の柱等に現存しています。何とかして地域住民の手で駅舎を守り、活性化の拠点、平和の発信地としていこうという機運が高まり、駅保存活用実行委員会を平成19年6月に設立し、以降、平和コンサートをはじめ、ひな祭りイベントなど各種イベントを実施していくことにしました。

現在、土日、祝祭日は観光目的で駅舎を訪れる方が300人を超えるようになり、その来場者がウォーキングマップ片手に駅周辺を散策できるようなコースを提供しています。

事業内容

○平和コンサートの実施

日時：平成21年7月29日(日)

第二次大戦時の機銃掃射の弾痕がある大隅横川駅を活性化の拠点、平和の発信地となるように第3回目の平和コンサートを開催しました。6月より、アーティストや音響、照明を依頼するみやまコンセールと打合せを行い、実行委員会でコンサートの詳細を決定していきました。

また、コンサートのポスター、チラシを作成し、開催1ヶ月前より市内外の駅、施設等に貼付、配布するなど宣伝活動を行いました。

平和コンサートでは、山本祐ノ介氏夫妻のチェロ、ピアノの演奏をメインに、地元小中学生による金管バンドの演奏や平和に関するメッセージ文の発表等を行いました。

約500名が来場し、竹灯籠を周囲に配置し、幻想的な雰囲気の中でのイベントは好評を得ました。



○ひな祭りイベントの実施

2月7日～3月14日まで、第2回目のひな祭りイベントを開催しました。メインは2.5トンの巨大石雛で駅舎前に置き、駅舎内には龍馬・お龍の石雛、ひょうたん雛、パン雛など多彩な雛人形を揃えました。2月7日の初日には、地元中学生によるハンドベル演奏、また、ブリ大根・ぜんざいの振る舞いなども行いました。



○ウォーキングマップの増設

昨年、地元横川小学校の児童が大隅横川駅を中心とする周辺のウォーキングマップを作成し、駅舎に配置したところ、来訪者に好評であったという間に3千部のマップがなくなりました。

今年度は一部修正を行い、前回よりも冊数を増やして4千部印刷し、駅舎に配置しました。

事業の成果

① 平和コンサートの実施

平和コンサートも3回目となり、同駅舎で催すイベントの目玉の一つとなってきました。国の登録有形文化財の駅舎を使ったコンサートということで、平和の発信地として位置づけられ、観光スポットとして来訪者の増につながりました。

② ひな祭りイベントの実施

今回、駅舎前に巨大石雛を置いたことが同イベントの目玉となり、マスコミ等による宣伝効果により、来訪者も非常に多く、休日等は観光バスでの見学も多かったようです。イベント初日の振る舞いは、多くの来場者を引き寄せ、また約700人の来訪者に非常に喜ばれました。

③ ウォーキングマップの増刷

昨年、地元小学生の手づくりマップを印刷して駅舎に配置したものが人気となりました。マップを片手に駅周辺の散策はもちろん、山ヶ野金山、大出水、丸岡公園などの情報も網羅しているため、そちらへの来訪者も増えているようです。



(ウォーキングマップ)

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

特にありませんでした。

3. 予算執行

多少の変更がありました。

4. 今後の展望

イベントをグレードアップしたい気持ちはあるが、まずは継続して、より来訪者増に繋げる方策(催し物)等を考えていきたいと思えます。

5. その他

ひな祭りイベントは、マスコミを利用した効果もあり展示期間中の来訪者も多く、休日は観光バスでの来場もかなりありました。

平日は約150~200人、土日祝日が300~400人が来場し、県外からの来訪者も目立ちました。

団体情報

〈団体名〉大隅横川駅保存活用実行委員会

〈代表者〉愛甲 信雄

〈設立日〉平成19年6月27日

〈会員数〉150人

〈主な活動内容〉

- ・平和コンサート
- ・日比野克彦ワークショップ
- ・KKBふるさとCM撮影(第3位優秀賞受賞)
- ・駅舎ライトアップ工事
- ・ジャンボ門松作製
- ・菜の花、桜植栽
- ・特急はやとの風5分間停車実現
- ・駅舎成人式挙行
- ・ひな祭りイベント
- ・こいのぼり創作展
- ・阿羅こんしん行脚展等

〈連絡先〉

所在地 〒899-6303

霧島市横川町中ノ263番地

霧島市役所横川総合支所地域振興課

TEL 0995-72-0511 FAX 0995-72-9366

市民が協働する子育て支援地域づくり事業

＜特定非営利活動法人 ワークスコープ 国支部＞

事業費：492,345円

市補助金：243,000円

目的（背景・課題）

霧島市は若い世代の人口流入も多く、転勤してきた若い家族(核家族)で夫婦共働きの方々もたくさんいるわけですが、その中には地域に知り合いがいない方や夫婦二人だけの育児に不安を持っている方もいらっしゃいます。

そこで、知り合いを増やしたい方や仲間づくりをしたい方などが交流し、子育ての悩みを話したり、情報交換をしたり、リフレッシュする場が必要と思われまます。私たちは、母親同士が会える場を増やし、安心して子育てができる地域づくりのお手伝いをしたいと考えています。

事業内容

①子育てイベントの定期開催

親子の交流を目的とする「ほのぼのイベント」を毎月開催し、母親同士が会えるきっかけとします。

- 7/29(水) アロマ虫除けスプレーづくり
- 8/22(土) くるみボタンの小物づくり
- 10/31(土) 食育・郷土菓子づくり
- 12/12(土) クリスマスグッズ製作
- 1/16(土) お正月遊び・餅つき大会
- 2/13(土) バレンタインチョコづくり
- 3/13(土) 春祭り(子育て講座・食育講座・フリーマーケット等)

②学校行事等の一時保育

子育てイベントで知り合った同士がお互いの子どもを預かり、母親同士の自主活動の支援を行います。

- 12/10(木) P T A
- 2/19(金) P T A
- 3/ 9(火) P T A



春祭り(子育て講座・食育講座)

事業の成果

今年は7回のほのぼのイベントを開催することができました。イベントに子育てサークルの方も参加されて、その中からボランティアで活動を手伝いたいとの申し出が、昨年を引き続いてありました。

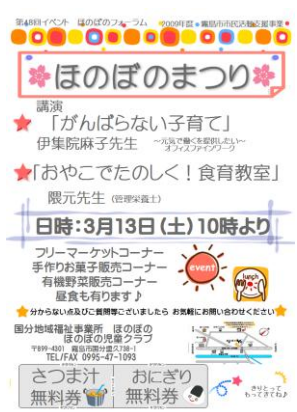
イベントを楽しむだけでなく、参加者同士のコミュニケーションも深まり、地域交流の場を支える側へと意識が高まったものと思いました。

これからは、そういう方々とイベントの企画・運営を行い、地域の方々が安心して子育てができるよう、今後もサポートしていきたいと思っています。



自己評価

1. 事業効果
期待していた以上の効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
学校行事等の一時預かりについての広報の方法をもっと工夫し、より多くの方へ周知できれば良かったと思います。
3. 予算執行
ほぼ予定どおり執行できました。
4. 今後の展望
今後もイベントを続け、地域の方が気軽に参加し交流できる場を提供し、安心して地域で子育てができるようサポートをしていきたいと思っています。
5. その他
参加者より、ボランティアで活動を手伝いたいとの申出が去年に引き続いてありました。色々な方が集まり交流する場の必要性・重要性を感じ、少数ではありますが市民の意識が高まったと思います。



団体情報

- 〈団体名〉 特定非営利活動法人
ワーカーズコープ 国分支部
- 〈代表者〉 岡元 ルミ子
- 〈設立日〉 平成 13 年 9 月 13 日
- 〈会員数〉 8 人 (全体数は 371 人)
- 〈主な活動内容〉
- ・ 子育てイベントの定期開催
今年 7 回開催(通算 48 回目)
- 〈連絡先〉
- 所在地 〒899-4301
霧島市国分重久 738-1
TEL 0995-47-1093 (FAX 兼用)
E-mail honobono@po.mct.ne.jp

霧島自然再生プロジェクト

＜特定非営利活動法人 霧島サンバイオ＞

事業費：601,145円

市補助金：300,000円

目的（背景・課題）

霧島山系の自然形態がシカの増頭により、天然記念物のノカイドウをはじめとした自然林や若芽をエサにするようになり、山林の再生に支障を来している。このことは、環霧島会議でも課題の一つとして協議がなされている。

そこで、自然保護とシカの適正頭数のあり方や、今後の活用方法について、地域住民と共に学習会を重ね、市民に向けてフォーラムを開催し、自然環境保全の意識啓発を図る。

事業内容

霧島山系の自然保護・保全の現状や課題、シカの適正管理のあり方、シカ肉の活用方法について、地域住民と共に学習会を重ねてきた結果、その対策として、①自然林を再生すること、②シカの適正管理・活用という二つの取り組むべき方向性が明確になった。

昨年度は自然林再生について、講演会や植林体験教室を開催し、持続可能な自然環境保全の意識啓発に取り組んだが、今年度は、シカの適正管理やその活用方法について、学習会や現地研修を重ねた。また、フォーラムを開催し、広く市民や環霧島会議の関係者を集めて、シカ被害と対策の現状について啓発を図った。



現地研修：湧水町上床牧場

●経過

○8/24(月) 定例学習会

【現地研修：日鉄鹿児島地熱(株)】

・講師 日鉄鹿児島地熱(株)取締役 後幸 和則氏

【現地研修：湧水町上床牧場】

・講師 上床牧場アンの家 竹中 勝雄氏

【全体会：国分シビックセンター公民館2F会議室】

①議題 全国のシカの利活用の現状と課題

講師 全日本養鹿協会会長 丹治藤 治氏

②議題 全国のシカの利活用の現状と課題

講師 前東京農工大学 教授 石井 泰博氏

参加者数 50名

○10/28(水) 定例学習会

【現地研修：伊佐市菱刈庁舎会議室、伊佐市菱刈シカ肉加工施設】

・講師 伊佐市菱刈庁舎農林課 永吉氏

【全体会：国分シビックセンター公民館3F会議室】

①議題 これまでの経緯及び今後の方向について

②議題 霧島屋久国立公園指定75周年記念
“霧島のシカ展”について

・シカ肉の試食

参加者数 38名

○2/9(火) 定例学習会

【現地研修：熊本県球磨郡五木村庁舎会議室、五木村猪鹿解体処理加工施設】

・内容 五木村猪鹿解体処理加工施設及び有害鳥獣被害対策事業実施状況について

・講師 五木村総務課 森田氏、産業課 山本氏

【全体会：霧島市役所8Fレストラン野のいぶき】

①議題 シカ被害状況の聞き取り調査報告について

②議題 フォーラム(バイオマスフェア)について

③議題 環霧島会議の取組みについて

④議題 霧島市鳥獣被害防止計画(案)について

・シカ肉試食 ソーセージ(試作品)、ハム

参加者数 37名

○3/22(月) バイオマスフェア

【フォーラム：国分シビックセンター公民館会議室】

☆報告

①緊急課題！霧島山系の生態系とシカの対策

報告者 脇元 敬氏(霧島自然再生部会長)

②テーマ 厄介者の竹の利活用の可能性が見えてきた

報告者 前田 清水氏(木質資源化部会長)

☆講演会

演題 シカ被害と対策の現状：南のニホンジカとどう付き合うか？

講師 北海道大学 助教授 立澤 史郎氏

参加者数 80名

事業の成果

- シカの食害等の現状を研究し、市民に啓発することができた。
- シカの頭数調査や鳥獣対策等の鹿児島県、宮崎県の施策の違いについて学ぶことができた。
- シカ肉や皮などを有効利用するための方策と課題が明らかになった。
- 有害鳥獣対策を現場で行っている猟友会の皆さんと、意見交換や研修会を行うことができた。
- シカ対策に向けての組織づくりの契機とすることができた。
- 環霧島会議の活性化に寄与することができた。

自己評価

- 事業効果
期待していた効果が上がった。
- 改善すべき課題
シカ肉等の利活用についての組織化は、一定のメドがたったものの今後も引き続き検討することとなった。
- 予算執行
多少の変更があった。
(講師の都合により、バイオマスフェアが予定していた2月末に開催できなかった。3月22日開催。)
- 今後の展望
 - シカ肉などの利活用に向けてさらに研究し、地域主体の組織化を図る。
 - シカの適正調整とシカ肉利活用に向けては、宮崎県が実施しているような県単事業の必要性を関係機関と連携して実施していく必要がある。
- その他
昨年度に引き続き2年目の事業展開となったが、猟友会や環霧島会議のメンバー等への参加呼びかけなど、広がりを見せたことは評価できる。



学習会（国分公民館会議室）



バイオマスフェア（国分公民館会議室）

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人
霧島サンバイオ

〈代表者〉 理事長 大坪 徹

〈設立日〉 平成19年12月14日

〈会員数〉 42人

〈主な活動内容〉

- ・バイオマスの利活用等に関する事業
- ・地域産業振興等に関する事業

〈連絡先〉

所在地 〒899-6404

霧島市溝辺町麓 391-5

TEL 0995-58-2206

FAX 0995-58-3086

ふるさと自然林再生活動

<霧島ふるさと命の森をつくる会>

事業費：1,100,127円

市補助金：500,000円

目的（背景・課題）

霧島は日本で初めての国立公園に指定されたすばらしい地域である。しかしながら、自然林が再生しないなどの問題が起こり始め、国立公園としての魅力が減少する可能性がある。このことは、環霧島会議でも大きなテーマとなっている。

そこで、霧島市の山林や原野、都市公園、街路樹をふるさとの木の植生で再生するために、どんぐり拾いやどんぐりの植えなど、子どもたちと環境学習を行い、自治会・学校などと一緒に森づくりをしていく。

植林方法は、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生の密植方法で行っていききたい。

どんぐり拾いや植え教室を開催し、子どもたちの環境学習の場をつくった。

参加者：国分宇宙少年団 20人 外



植林活動（牧園町高千穂）

事業内容

○鎮守の森再生活動

日時：隼人町宮内地区 都市公園

場所：平成21年7月6日(月)

鎮守の森の維持管理を行った。

○霧島山系の自然林再生活動

日時：平成22年2月28日(日)

場所：牧園町高千穂 北消防署となり

どんぐり株主を募集し株の購入をしてもらって、自然再生への意識高揚を図り、その植樹会と自然観察会を開催して、森づくりを体感してもらった。

参加者：150人

○環境学習

日時：平成21年11月23日(月)どんぐり拾い

平成22年1月6日(水)どんぐりの植え

○高齢者の生きがい対策と地域活性化

日時：通年

場所：国分塚脇 種苗場

どんぐりからの苗づくりを高齢者に管理委託し、生きがい対策にしながら地域活性化につなげた。

○その他の活動

国分塚脇の種苗場などにおいて、どんぐり拾いやいろいろな木の種まき、学習会などの活動を8月から3月まで、のべ17回行った。



(どんぐり等の苗植え作業)

事業の成果

- ・霧島の自然の再生に貢献することができた。
- ・霧島山系の自然の保全に寄与した。
- ・子どもたちに森や自然の大切さや、地球規模の環境問題について学習を深めることができた。
- ・自治会の公園を手づくりの森で再生することで、公共施設を愛する気持ちが育まれた。
- ・高齢者の生きがいがづくりに貢献ができた。



(植樹活動)

(自然観察会)



(環境学習)

自己評価

1. 事業効果

期待していた効果が上がった。

2. 改善すべき課題

植林計画面積の減少により事業費全体の額が低くなった。

3. 予算執行

多少の変更があった。

(どんぐりなどの種植え時期の都合により、事業が予定していた2月末までに終わらなかった。)

4. 今後の展望

平成21年2月の設立以来、事務局を市生活環境政策課においていたが、22年度から事務局員を配置して専従体制で取り組むようにして活動の充実を図る。

5. その他

- ・どんぐり拾いや種拾い、育苗が計画以上によく進んでいる。
- ・市民や企業の方々へも関心が高まり、当初計画していなかった企業の森づくりの支援なども行うことができた。

団体情報

〈団体名〉霧島ふるさと命の森をつくる会

〈代表者〉会長 蔵前 壮一

〈設立日〉平成21年2月

〈会員数〉86人

〈主な活動内容〉

- ・宮脇昭講演会・植林教室
- ・隼人中道地区公園植樹
- ・牧園町旧高千穂小跡地植樹
- ・企業の森づくり支援
- ・どんぐり拾い、種まき活動

〈連絡先〉

所在地 〒899-4332

霧島市国分中央一丁目7-32

TEL 0995-73-5580

FAX 0995-73-5581

自主ミュージカル公演事業

<はやと創造舞台>

事業費：289,590円

市補助金：184,000円

目的 (背景・課題)

はやと創造舞台は、地域の人々と共に汗を流し、地域の「絆」を深めることで、明るい社会・新たな文化を創造することを目的に活動を行っています。

これまでに、プロのミュージカル劇団によるミュージカル公演やライブコンサート等を開催してきたが、はやと創造舞台の基礎は、旧隼人町合併50周年の記念事業として、地域住民総勢100名が役者、裏方となってプロの劇団に指導を受けて行った市民参加型ミュージカル公演でありました。これは夏休みの2日間で2回の公演を行い、1200人以上の観客に感動を届けることができました。

今回、自主ミュージカルを実施することで、地域を盛り上げ、このミュージカルに関わる人々と、そして、このミュージカルを見てくださる市民の方々に感動と元気を届けたい、と思っています。

また、来年度は、霧島市合併5周年であるため、霧島市を題材とした住民参加型の大規模なオリジナルミュージカルを霧島市内(市民会館等)で開催することを計画しています。今年度実施する事業はその前段としても位置づけており、今回実施するミュージカルを見に来られた方々にミュージカルの魅力を知っていただき、来年度実施するミュージカルで役者を演じてみたい方や協賛を募集することも目的としています。



事業内容

○自主ミュージカル「ひかるの夏2010への道」
平成21年5月～6月

- ・週1回集まり、台本の精査及び台本読み合わせ。また、並行して曲や振り付け作成の作業。

平成21年7月～10月

- ・霧島市隼人町内の公民館(宮内地区公民館、小野地区公民館、天降川地区公民館)で週2回の稽古を実施。
- ・9月～10月は、稽古と並行して小道具、チケット、チラシ等作成の作業。

平成21年10月24日(公演前日)

- ・会場設営(音響、照明セッティング及び会場装飾等)
- ・通し稽古(劇団ドリームカンパニー代表徳満氏より指導)

- ・ゲネプロ

平成21年10月25日(公演当日)

- ・通し稽古(劇団ドリームカンパニー代表徳満氏より指導)

- ・公演



事業の成果

今回のミュージカルは集客 100 名を目指していたが、公演当日は約 200 名の来客があり、大盛況でありました。公演後、観に来られた方々から、感動した！観に来て良かった！などありがたい声をたくさんいただきました。また、アンケート結果を見てみると、はやと創造舞台が実施するミュージカルをまた是非観たいという意見が多くありました。

今回のミュージカルを実施する当初の目的である「地域を盛り上げ、このミュージカルに関わる人々・このミュージカルを観てくださる市民の方々に感動と元気を届けたい。」ということは十分に達成できたと感じました。また、今回のミュージカルの準備を進めていく中で、役者や裏方スタッフとして、はやと創造舞台の会員以外の多くの方々から協力をもらいましたが、そのような方のうち数名が、はやと創造舞台の会員として新たに仲間になりました。

今回の事業は、来年度実施予定の「霧島市合併 5 周年記念市民参加型オリジナルミュージカル公演」に向けて大きな弾みとなりました。

自己評価

1. 事業効果

期待していた効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

稽古を 7 月から始めましたが、最初のうちは人の集まりがよくありませんでした。原因として、稽古に来て自分の場面の稽古時間が少ないため、劇団員のモチベーションが下がったものと思われます。

今後は、より詳細な稽古スケジュールの作成や、一人ひとりに何らかの役割を持たせて、団体の中での個人の必要性及び重要性等を感じてもらいたいと思います。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できました。

4. 今後の展望

来年度は、多くの市民を巻き込み霧島市合併 5 周年を祝うオリジナルミュージカル公演を行う予定。そのミュージカルを観に来た方々に、私たちのふるさと霧島市のすばらしさを感じてもらい、感動を与えられるようなものにしたいと思います。

そしてその後も、演じることの楽しさを体験したメンバー、また観劇して感動を共有した市民が、地域社会における次なる担い手として、芸術文化活動を進めていくことを願っています。

5. その他

当初、8 月に公演を予定していましたが、ミュージカルの仕上がりが遅れ、結局 10 月公演になってしまったので、進捗管理などの課題が見えてきたように思います。

団体情報

〈団体名〉 きりしま創造舞台

《はやと創造舞台》

(平成 21 年 12 月名称変更)

〈代表者〉 会長 竹下 淳一

〈設立日〉 平成 17 年 3 月 18 日

〈会員数〉 31 人

〈主な活動内容〉

- ・平成 21 年自主制作ミュージカル「ひかるの夏 2010 への道」公演
- ・平成 20 年劇団ドリームカンパニー「ハロー、天使です！」出演
- ・平成 19 年 KKB ふるさと CM 大賞制作「優秀賞」受賞 ほか

〈連絡先〉

所在地 〒899-5105

霧島市隼人町小田 613-2 ゆめみ館

<http://ksouzoutai.web.fc2.com/>

E-mail kirishima_c_s@yahoo.co.jp

アート&アグリで make confidence

＜特定非営利活動法人 Ryouiku Circle はなはな＞

事業費：470,887円

市補助金：300,000円

目的（背景・課題）

発達障害を持つ方々が、対人関係・社会性・学習面での適応が難しいという特性を持つということは、周知されるようになってきました。自立支援法の施行や特別支援教育の実施によって、これらの特性に対する個別・集団での支援も次第に拡充されてきています。一方で、芸術・技巧面などで優れた能力を持つことも知られてはいるものの、これらの能力を積極的に伸ばしていく施策についてはあまり着目されていません。

そこで今回、「アート&アグリで make confidence」事業では彼らの芸術性、中でも絵画・音楽の能力に着目し、絵を描くことや歌や演奏を楽しむチャンスと絵画・音楽の能力を更に伸ばしていけるような学習の機会を提供することを目的としています。

また、農業での軽作業、特に共同作業を行うことで、体力の向上や収穫の際の達成感、共同作業における対人関係の成功経験を積み重ねることを目的としています。

この事業を通じて彼らが自分の中の力に気づき自信を持つことで、学校生活や社会との関係を充実したものとし、心理的にも経済的にも将来の自立した生活に結びつける一助としたいと考えています。

事業内容

○リトミック、音楽療法、絵本読み聞かせ等

＜参加数＞合計 57 家族

＜場 所＞国分総合福祉センター

＜開催日＞平成 21 年 7 月 26 日（16 家族）

平成 21 年 9 月 13 日（12 家族）

平成 21 年 10 月 18 日（7 家族）

平成 21 年 11 月 15 日（6 家族）

平成 21 年 12 月 6 日（8 家族）

平成 22 年 2 月 28 日（8 家族）

○絵画教室

＜参加数＞合計 23 人

＜会 場＞国分総合福祉センター、

Ryouiku Circle はなはな

＜開催日＞平成 21 年 10 月 18 日（10 家族）

平成 21 年 12 月 13 日（10 家族）

平成 22 年 2 月 28 日（3 家族）

○農業体験

＜参加数＞14 家族

＜会 場＞off 前原農場

＜開催日＞平成 21 年 8 月 30 日

絵画教室



絵画教室

リトミック



リトミック

事業の成果

発達障害を持つ方を対象とした絵画教室はあまり例がなく、多くの方々から関心と問い合わせをいただきました。

『絵画（創作活動）を楽しむ』ことを第一の目標としたため、年齢、障害の有無や程度を問わず楽しむことができました。どの作品も子どもたちのすばらしい表現が込められていると講師から絵を褒められることによって、すべての参加者が積極的にキャンバスに向かうようになりました。子どもたちだけでなく、大人までその場にいることがわくわくして楽しくなり、中には一緒に創作活動を楽しんでいるボランティアの方もいました。

その他、リトミックはこれまで2年間の継続の実績があることから、音楽を使って体を動かす楽しさはもちろんのこと、親子で活動することの意義を理解していただきました。

また、農業・調理体験では、自分の担当の仕事を協働して行い、最後に美味しく食事を摂るという達成感を持ち帰っていただくことができました。

4. 今後の展望

絵画教室、リトミック、ミュージックケア、農業・調理体験は来年度も継続を希望される方が多く、本事業による継続支援をいただきたいと思います。

また、年間参加者を公募し多数の参加者を募ると共に、絵画の展示、画集の作製、コンサートの開催、指導者の育成等へ発展させていきたいと考えています。

農業体験



農業体験

自己評価

1. 事業効果

期待した以上の効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

広報のやり方をもっと工夫すれば、より多くの方の参加があったと思います。

具体的には市報の利用、年間参加者の公募などです。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できました。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人

Ryouiku Circle はなはな

〈代表者〉 前原 利彦

〈設立日〉 平成21年4月設立登記

(平成18年6月から活動)

〈会員数〉 11人

〈主な活動内容〉

- ・個別療育（障害を持つ子どもや、その親を支援する個別療育）
- ・リトミック

〈連絡先〉

所在地 〒899-4332

霧島市国分中央二丁目5-6

TEL 0995-56-1240 (FAX 兼用)

様々な人々が集い豊かな時を創る事業

<特定非営利活動法人 NPOつくしの家>

事業費：304,084円

市補助金：200,000円

目的 (背景・課題)

ノーマライゼーションの福祉理念が提唱されて以来、様々なパラダイム転換が図られた諸制度に基づく社会資源やシステムが整備され、人々の求める生理的・安定的欲求への対応は一定の水準に達したと評価できます。それでもなお、個々の解決困難な事例や緊急な事例については、採算を度外視した民間福祉の機敏な取り組みにより危機を回避できたことも数多くあります。

本事業においてはさらに歩を進め、様々な困難を背負う人々に焦点を合わせ、ユニバーサルデザインの視点で環境を整え、様々な人を対象に、ほっとできる場所、時を忘れて過ごす時間、その時居合わせた異なった他者との交流、夢中になってものづくりをする機会を提供することにより元気を持ち帰っていただき、その後の関係の継続により、自分のもてる力を最大限に発揮できた自分に満足できる状態を味わってもらうためのきっかけづくりや、持続する情熱への火付け役となり得ることを目的としています。

事業内容

○陶芸体験等の実施

・陶芸体験

場所：ぽっから村 つくし工房 (国分上之段)

内容：陶芸体験をメインに、昼食づくりのお手伝いやアスレチック遊びを体験。

- 8月5日(水) 幼児・児童 14名参加
- 8月6日(木) 幼児・児童 10名参加
- 8月7日(金) 幼児・児童 8名参加
- 8月11日(火) 幼児・児童 16名参加
- 8月12日(水) 幼児・児童 16名参加
- 8月18日(火) 幼児・児童 5名参加
- 8月19日(水) 幼児・児童 7名参加

8月20日(木) 幼児・児童 9名参加

・散策・食事会等の実施

場所：ぽっから村 つくし工房

8月31日(月) 作品鑑賞・自然散策

高齢者 4名参加

9月29日(火) 食事会 (高齢者 4名参加)

10月9日(金) 食事会・地域交流

高齢者 9名参加

10月12日(火) 食事会・団子づくり

高齢者 3名参加

11月23日(月) 昼食バイキング&カラ

オケ (高齢者 5名参加)

・陶芸体験イベント

場所：国分山形屋 (38名参加)

1月2日(金)～4日(日)の3日間

・陶芸・ランプシェード作り

場所：ぽっから村 つくし工房

2月5日(金) 高齢者 8名参加



陶芸体験・昼食づくり

事業の成果

陶芸体験イベントや交流イベントを 17 回開催し、のべ 156 名の方々が参加されました。幼児・児童の皆さんは時間が経つのも忘れて夢中になって粘土と遊びました。高齢者の皆さんにとっては、作品の仕上がりによる感動や昔懐かしい環境を整えることによるゆったりとした時間の流れのおかげか、精神的癒しの効果や認知症状の一時的な緩和が見られました。

社会的支援が必要な方々が「豊かな時」を過ごせるためには、ホスピタリティの精神で個々に応じた環境を整えると共に、適切な対人援助技術を準備することが必要であると、実践の過程で検証されました。

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

パンフを作成して配布するという漠然とした広報活動を改め、対象者への積極的アウトリーチの必要性を感じました。その際、各対象者ごとのニーズに応じた体験プログラムの提案が大切であると思いました。

3. 予算執行

〈多少の変更がありました。〉

プレゼンテーションにおいて、「手を広げ過ぎではないか」という指摘を参考に、陶芸体験と環境を整えるためのアイテムづくりに集中的に取り組みました。また、経費節減のため自前でパンフを作成しました。

4. 今後の展望

- ①子どもからお年寄りまで、自然に親しめる環境整備を行います。
- ②健康な方から援助を必要とする方で、個々に応じた「豊かな時を創る」プログラムを作成します。
- ③幼稚園・小学校・高齢者施設・地域へ積極的アウトリーチを展開します。

5. その他

冬休み期間中に紙漉き体験を予定していましたが、寒さに対する環境整備が間に合わず断念しました。



団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人
NPOつくしの家

〈代表者〉 松山 米子

〈設立日〉 平成 18 年 12 月 7 日

〈会員数〉 10 人

〈主な活動内容〉

- ・ 通所介護サービス事業
- ・ 学童保育事業
- ・ 陶芸体験教室

〈連絡先〉

所在地 〒899-4462

霧島市国分敷根 862

TEL 0995-45-8681

FAX 0995-55-6475

移住者の地域コミュニティへの参加を支援する事業

事業費：151,552円

＜特定非営利活動法人 霧島市への移住応援協会＞

市補助金：100,000円

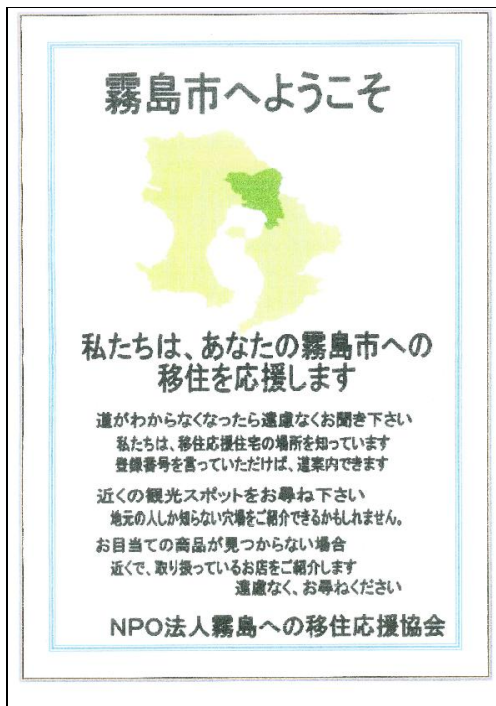
目的（背景・課題）

移住経験者たちのコミュニティを通して移住後の生活スタイルの変化に対する不安を取り除くと共に、移住者が地域コミュニティへとけ込めるよう橋渡しを行うサービスを提供することを目的としています。

事業内容

○移住者への支援事業

- ・移住者たちによる親睦会の開催
平成21年9月17日（木） 隼人町商工会館
- ・移住経験者による移住相談会の開催
（今井氏宅にて個別に開催）
- ・案内書、パンフ、ポスターの作成
- ・ホームページによる広報活動



（移住応援ポスター）

親睦会 21年9月17日



「ひっとべかごしま 2010 共生・協働フェスティバル」
平成22年3月14日（日）、かごしま県民交流センターにて



（ひっとべかごしま 2010
共生・協働フェスティバルに出展）

事業の成果

移住経験者の自宅で、移住希望者の相談を個別に行ったところ、好感触が得られた。現在移住を計画中の方が3組となりました。

また、以前に県外から霧島市内に移住してきている方が3組、新たに私たちの仲間に入ってくれました。

そして、移住を決められた方が1組、現在、隼人町に自宅兼仕事場を建設中であります。（もう1組移住を決めた方がいましたが、本人の希望により、始良市に住宅を購入されました。）

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

霧島市内に居住する移住体験者の協力を得るための広報活動に、もっと力を入れる必要があると思いました。

3. 予算執行

〈多少の変更がありました。〉

- ・ 予算が少なかったので、広報手段をインターネットに絞りました。
- ・ パンフレット・ポスターは外注せずに自前で作成しました。
- ・ 個別説明会・交流会は、今井氏の厚意により、無料となりました。

4. 今後の展望

「ひっとべかごしま 2010 共生・協働フェスティバル」においては、多くの団体と交流することができました、また、当会の活動に興味を示し、講演などの依頼をするところもありました。

今後県内の移住体験者への協力体制もとっていきたいと考えています。

5. その他

今後、広く県内への活動拡大（薩摩川内市）が見込める足掛かりができました。

県内の移住体験者も定住に向けてのコミュニティの必要性を切望していることがわかりました。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人

霧島市への移住応援協会

〈代表者〉 松元 辰也

〈設立日〉 平成 20 年 10 月 1 日

〈会員数〉 5 人

〈主な活動内容〉

- ・ 移住希望者への情報提供
- ・ 移住経験者の交流会の開催

〈連絡先〉

所在地 〒899-4301

霧島市国分重久 947-5

FAX 0995-63-6034 (松元)

E-mail businesshelp@po5.synapse.ne.jp

初午祭造形うま祭り

<ウィメンズ隼人>

事業費：201,320円

市補助金：100,000円

目的（背景・課題）

地域共同体が崩壊してしまっている今日、様々な問題や事件が発生しています。地域や学校で顔見知りを増やし、人と人を繋ぐ地域連帯を回復する一端になればと企画しました。

本事業では、初午祭の主役である馬を、手づくりで表現し発表することで、製作過程において老若男女の関わりや、地域のコミュニケーション機能が高まり、子どもの健全育成も図られると考えました。にぎやかな初午祭の中で作品を発表することで祭りを体感し、思い出づくりにつながることを目的とします。

11/28(土) 第1回造形うま祭り講座

場所：隼人国分サティ

参加者：19名

1/24(日) 第2回造形うま祭り講座

場所：サンあもり

参加者：20名

1月 初午祭造形うま祭り参加者募集発送

2月 参加対象者への資料発送

3/7(日) 初午祭造形うま祭り

参加者 9団体・個人

3月 機関紙への原稿依頼

3/26(金) 機関紙「馬うまシャンシャン」発行

事業内容

平成21年度は昨年度に引き続き、霧島市市民活動支援事業補助金の交付を受けての実施となりました。11月と1月の造形うま祭り講座を経て、当日の造形コンテストを実施しました。

講座は、子どもたち、親子組、高齢者の方々など多くの方に参加いただきました。子どもたちの刃物等の使い方にはヒヤヒヤしましたが、指導者の適切な助言と指導で大きな怪我も無く、どうか形になり、出来上がりには大喜びしていました。

今年は、2回目の講座がインフルエンザ流行のため延期され1月開催となり、心配しましたが20名の参加があり、ほっとしました。

昨年に比べて、今年はエコもプラスされ、さらに完成度が上がったのではないかと思います。

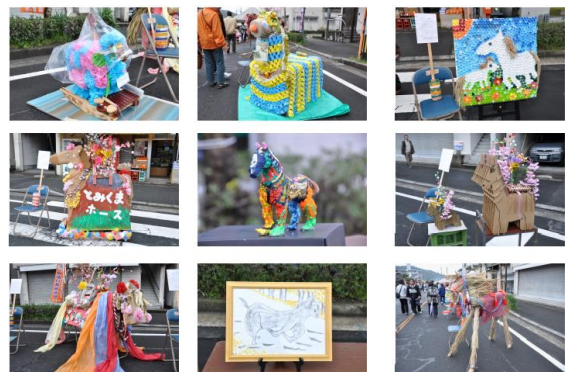
○経過

9月 造形講座内容・会場の検討

11月 造形講座開催広報・参加者募集



(造形うま祭り講座)



事業の成果

造形講座の中で、造形に対する柔軟な考え方や、製作に対する難しいとの思い込みが薄れ、創造への意欲が高まったのではないかと、思います。また、製作中にコミュニケーションが深まり、仲間づくりが進んだものと思われま

す。祭りに参加することにより、初午祭が身近に感じられ、良い思い出づくりとなったのではないのでしょうか。

出展作品が材料・形態ともバラエティに富んでいて、次の年に向けての、関心を高めることにつながったと思っています。



(造形うま祭りコンテスト)

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

今回は特にありませんでした。

3. 予算執行

〈多少の変更がありました。〉

会場費が業者の好意により無料になったり、手渡しできる団体等には手渡しを徹底し、経費が抑えられました。反面、事務用品費等が講座延期により、広報等が重複し、経費が増えました。

講師謝金も2回目講座の材料の取り扱いが難しく助手を増やしたり、祭りの前日と当日の天気が悪く、設営協力者を長時間拘束したため、経費が増えました。

4. 今後の展望

造形講座から祭り参加につながるケースもあり、講座内容の充実など参加者の関心を高めることが重要と思います。

造形うま祭りへの関心を高めるにはマスコミ等との連携をもっと考えることが大事と感じました。

団体情報

〈団体名〉 ウィメンズ単人

〈代表者〉 中野 ヨシ子

〈設立日〉 平成8年8月

〈会員数〉 7人

〈主な活動内容〉

- ・ 初午祭造形うま祭り
- ・ 春の市
- ・ 路上ギャラリー
- ・ 対外活動(まちづくりイベント企画・運営)
- ・ 提言活動
- ・ 文化活動(文化講座・歌声喫茶)

〈連絡先〉

所在地 〒899-5102

霧島市隼人町真孝 880-12

TEL 0995-42-3381 (FAX 兼用)

ふるさと霧島夏祭りHP作成 & きりしま検定クイズ web 公開事業

事業費：455,327円

市補助金：219,000円

<ふるさと霧島夏祭り'09 実行委員会>

目 的 (背景・課題)

霧島市には豊かな自然や産業、多くの歴史、観光名所や文化があるのですが、まだまだ市民がその財産を知らないことが多くあります。そこで、霧島市が誕生して4年、今一度ふるさとの豊かさを再発見できるような、霧島の魅力が詰まったテキスト本『きりしま^{しつとくほん}知得本』を昨年ようやく作成することができました。しかし、値段が高かったことと、宣伝活動が不十分だったため、まだまだ県外はもとより市内においても、この本の存在すら知らない人がたくさんいる状況です。

今年はこの本のすばらしさと霧島に今から来ようと思っている人々に、インターネットを通じて情報公開し、霧島に興味を持ってもらい、予備知識がある中で霧島を無駄なく楽しんでもらおうという想いからHP(ホームページ)の作成、web公開を行いたいと考えました。

事業内容

① 編集委員会(企画部会)の開催

『知得本』の各事業所の内容に変更がないかをスタッフが手分けして確認を行いました。

② テキスト本のHP公開

平成21年7月中旬に完成、公開しました。

また、『知得本』をHPで公開するだけでなく、霧島神宮周辺の散策マップや門前町のマップも作成し、併せて公開しました。

③ 夏祭りでの検定クイズの実施

8月15日(土)夕方、霧島総合運動場にて実施しました。昨年以上に入場者を集め、過去最高の賑わいとなりました。HP公開の効

果が実感できました。

④ 霧島神水峡整備

散策マップと並行して、霧島神宮大鳥居の下にある溪谷『霧島神水峡』をふるさと霧島夏祭り実行委員会と地元の建設業組合「霧島建友会」で、雨の中、整備作業を行いました。この行動に地元の「神宮前通り会」も感銘を受け協力の申し出がありました。その後、周知を徹底させるためにPR看板の設置や菜の花の種まき等も行いました。

⑤ 評価会の開催

次年度への展望のための評価会を開催し、その中でHPとリンクさせタイムリーな情報を提供するブログを始めてはどうかとの意見があったため、平成22年2月よりブログを開始しました。



(霧島検定クイズ風景)

事業の成果

- 霧島市の魅力を詰め込んだテキスト本がHPに公開され、霧島に来る前に霧島の情報を入手しやすい環境ができました。
- 青少年へのふるさと学習の教材として、インターネット環境がある家庭には、いつでも提供できるようになりました。

- ・ 今まで神宮周辺の方々や建設業の団体と意見交換する場はありませんでしたが、今回の行動で今後の霧島について、協力し一体感を醸成することができるようになりました。
- ・ 今まで知らなかったことを収集する場として活用され、霧島のさらなる魅力を再発見できる環境をつくることができました。
- ・ 来訪者やUターン者へのふるさと紹介テキストとなりました。
- ・ 前回作成された本を知らなかった人たちにも情報を提供することができました。
- ・ ブログを開始したことにより、タイムリーな情報を提供できるようになりました。



HP (ホームページ)

自己評価

- 1. 事業効果**
 期待していた以上の効果が上がりました。
- 2. 改善すべき課題**
 今回は、特にありませんでした。
- 3. 予算執行**
 (多少の変更がありました。)
 予定より金額を下げてくれたり、消費税分を負けてくれた業者があったため、当初予算より抑えることができました。また、保険に今までは二日間入っていたのですが、二日目は危険性がないということで一日分としたため、その分節約になりました。
- 4. 今後の展望**
 - ・ 今回ホームページを作成したことで、もっと霧島をアピールできるようになったため、県内外の方々にもっと見てもらえるよう工夫していきたいと思います。
- 5. その他**
 昨年完成した「知得本」を今年は県内はもとより、霧島を遠く離れた霧島を想う方々に紹介することができて嬉しく思います。これからも、皆から喜ばれるよう頑張っていきたいと思います。

団体情報

〈団体名〉 ふるさと霧島夏祭り実行委員会
〈代表者〉 中馬 るみ
〈設立日〉 平成 18 年 4 月 1 日(規則制定)
 ※ 昭和 50 年から青年団・商工会青年部で夏祭りの実行委員会は組織
〈会員数〉 48 人
〈主な活動内容〉
 昨年度の夏祭りでは、検定クイズのテキスト本『きりしま知得本』を作成して、きりしま検定クイズを実施。約 2,000 人が参加しました。
 検定クイズのテキスト本の作成と宣伝効果により、例年の倍以上の来場者がありました。

〈連絡先〉
 所在地 〒899-4201
 霧島市霧島大窪 393
 霧島市商工会霧島支部
 TEL 0995-57-0121
 FAX 0995-57-0167

美しい湧水の郷再生事業

<特定非営利活動法人 NPO しきね>

事業費：503,401円

市補助金：300,000円

目的（背景・課題）

敷根地区は下水道施設がなく、生活廃水は未処理、または浄化槽経由で河川、用水路、側溝に流入しています。かつてホタル、とんぼが飛び交い豊かな自然を感じさせていた面影はありません。

県の生活廃水対策重点地域である下井・敷根海岸の海水汚染は、年々悪化の一途をたどっています。

水質汚染の大きな原因である生活廃水による汚染の実態調査を、昨年に続いて子ども育成会、公民館と協働で行うとともに、今年度から生活廃水による汚水の浄化技術の開発に取り組み、美しい湧水の郷再生を目指したいと考えています。

なお、浄化技術としては各地で行われている竹炭を利用する予定です。

この活動の中で子どもたちの環境問題学習と住民の環境問題への意識改革にも取り組んでいきたいと思っています。

事業内容

○水質調査

敷根地区の川、用水路、側溝の水質調査を公民館、子ども育成会と協働で、8月19日、20日の二日間実施しました。のべ参加数小中学生40名、大人20名を得て、①調査水域の水を採集し、環境水質検査セットによる水質の簡易化学分析と、②同水域の水棲生物を調べ、環境省の「水棲生物による水質判定」に基づいた評価から、水質汚濁の実態を把握しました。

①と②の結果はよく一致し、下水施設がなく、合併浄化槽の設置も遅れている敷根地区では、家庭排水による水質汚濁が大きいことが明らかになりました。

○水質浄化実験（本格実施に向けて予備テスト）

竹炭利用による水質浄化に、鹿児島高専の大竹教授の指導の下に取り組みました。竹炭の効果は既知ですが、コスト面、供給量、管理維持面で問題が多く、実用化例は少ないです。我々は、敷根に豊富に産する孟宗竹から竹炭を製造し、これを利用することにしました。

自製の竹炭10kgを細かく裁断し、網に入れて用水路に浸漬させ、2ヵ月後、この竹炭を洗剤・醤油・牛乳等を混合してつくった汚染水(モデル水)に投入し、その浄化性能を評価しました。テストの結果から、竹炭の有効性が明確になりました。来年度から拡大テスト実施予定。



南日本新聞平成21年8月24日の記事



水質調査（塩入川）



水質調査結果の発表



水浄化用竹炭



用水路浸漬用竹炭網袋詰め

事業の成果

水質調査を公民館、子ども育成会と協働で実施することにより、地域住民の環境問題への関心が高まり、家庭排水の環境負荷が話題となりました。子どもたちも環境問題と同時に身近にいる水棲生物についても、関心を深めることができました。また市の水質調査は大きな河川中心ですが、奥錦江湾岸地域は敷根同様の小さな川、用水路、側溝から海に無処理の家庭排水が流入しているケースが多く、今回の調査結果はこの点でも貴重であったと思います。

竹炭による水の浄化実験では、水路に浸漬しておいた竹炭が良好な浄化作用を示すことが明らかとなりました。今後適切な水路にダムを作り拡大した実験を行って、浄化作用をより発揮しやすい条件を把握したいと考えます。

今回、竹炭を自製するため竹の間伐を行いました。この間伐は竹林・森林保護の上でも重要であります。海を守るには山を守れの言葉どおり、敷根地区にとって竹炭製造は水の浄化だけでなく、山の保護という点でも大変有意義な事業であることが判明しました。

自己評価

1. 事業効果

期待した以上の効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

水質浄化実験において、当初は竹炭購入の方針でしたが、価格や予測される購入量から竹炭の自給方針に変更せざるを得ませんでした。これについては事前調査が不足であったことが反省点となりましたが、結果として竹炭自製はベストの選択でありました。

3. 予算執行

(大きな変更を余儀なくされました。)

竹炭の自製への変更で、予算をオーバーしましたが、竹炭を自給できるため、竹炭のコスト・供給量の面でも、来年度からの拡大実験や本格事業展開が実現可能になりました。

4. 今後の展望

水質調査は今後も継続し、地域の環境意識向上につなげ、水質浄化は来年度、実験段階から事業としての本格実施段階に進む予定です。

5. その他

事業推進を、公民館、子ども育成会と共同して進めることにより、地域に密着した活動に成長してきていることは、評価できると思います。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動団体

NPOしきね

〈代表者〉 古川 繁郎

〈設立日〉 平成20年9月5日

〈会員数〉 21人

〈主な活動内容〉

- ・ 敷根地区河川等の水質調査と浄化
- ・ 歴史研究会の開催
- ・ 菊花展等各種イベント開催
- ・ 子ども学習会の開催など

〈連絡先〉

所在地 〒899-4501

霧島市国分敷根 1059

TEL 0995-71-0885 (FAX 兼用)

霧島市民に心肺蘇生・AEDを普及する事業

事業費：731,065円
市補助金：487,000円

<霧島心肺蘇生の会>

目的（背景・課題）

近年、突然の心肺停止患者に対して、傍らに居る人(bystander)が、有効な心肺蘇生と必要ならAEDを使用することで生存率や社会復帰率が上がってきています。特に患者が社会復帰できているのは、bystanderがいた場合のみであるといっても過言ではありません。

そこで、心肺停止患者の蘇生・生存・社会復帰をさせるため、霧島市民に心肺蘇生・半自動除細動器(AED)の啓蒙と、その技術習得をしてもらおうと思いました。現在、消防で同様の活動を行っていますが、当会は市民に会員になってもらって主体的に手技を覚えたり、普及に努めていただきたいと考えております。

イベントや小人数の集まりの際に、短時間の講習を行い、さらに手技を深めたい市民には、消防の3時間講習やアメリカ心臓病学会公認コースを案内いたします。



平成21年8月30日 南日本新聞に霧島心肺蘇生の会発足の記事が掲載された。

事業内容

○各種イベントでの啓蒙と講習会

下記のイベント等において、心肺蘇生の講習と啓蒙を行いました。

	受講者数
10/11 隼人町健康スポーツ祭り	35人
11/8 防災フェスタ	80人
11/8 松永地区運動会	30人
2/14 霧島市健康福祉祭り	52人
3/7 初午祭	20人
3/20 龍馬ハネウォーク1日目	20人
3/21 " 2日目	20人
消防署普通救命講習	のべ130人



防災フェスタ講習風景

○講習会の共催

医療関係者対象の霧島循環器セミナーにおいて、本会の活動内容の報告等を行い、医療関係者に心肺蘇生・AEDの重要性のアピールを行いました。

平成21年9月11日(金)と平成22年2月19日(金)の2回



龍馬ハネムーンウォークでの講習風景

事業の成果

各種イベントに参加し実際に講習を受けてくださった方からは、「見たり聞いたりはしていたけれど、実際に蘇生術を体験できて良い機会だった。勉強になりました。これからも折りにふれて講習会で経験を積んで行かないといけませんね。」など、心肺蘇生術がいかに重要であるかということ、訓練しておかないと実際にはできないという認識をもっていただけました。

また、子どもと母親、高齢者とその息子・娘が参加されましたが、実際に子どもや高齢者が心肺停止に陥った際に、母親や息子・娘がバイ・スタンダーになる可能性が高いため、真剣に講習を受けておられました。おそらく心肺蘇生を行う可能性が高いと思っていますので。

2回の講演会では、医療関係者に心肺蘇生の技術普及の重要性と霧島心肺蘇生の会の紹介や活動内容等の報告をすることができました。

また、新聞報道されたことで、心肺蘇生に関する啓蒙を図ることができたと思います。

自己評価

1. 事業効果

期待していた効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

市民対象の講演会を開催できませんでした。22年度は実施できるよう、実現可能な企画を検討したいと思います。

3. 予算執行

〈大きな変更を余儀なくされました。〉

- ・ 講演会に著名人を招こうとして、日程調整がうまくいかず、市民対象の講演会を開催できませんでした。
- ・ 会員が49名に増え、講師参加者が増えたため、交通費支給額が増加しました。
- ・ イベントで市民に講習をアピールできるように、当会の文字入りベストやのぼり旗を製作しました。

4. 今後の展望

引き続きイベント等で講習を行い、市民にもわかるよう恒例化していきたいと思えます。牧園で行われる県の防災訓練に参加し、また市民対象の講演会の開催や保健・介護・公務員関係者の講習も企画したいと考えています。

団体情報

〈団体名〉霧島心肺蘇生の会

〈代表者〉福崎 雅彦

〈設立日〉平成21年4月16日

〈会員数〉49人

〈主な活動内容〉

- ・ 各種イベントでの心肺蘇生・AEDの啓蒙と講習会の実施
- ・ 市民のスポーツ同好会・少年団への出前講習会の実施

〈連絡先〉

所在地 〒899-5112

霧島市隼人町松永一丁目37-1

TEL 0995-42-3564 (FAX 兼用)

E-mail fukusaki-m@po.mct.ne.jp

新現役の会エコプロジェクト事業

<新現役の会 霧島支部>

事業費：129,520円

市補助金：64,000円

目的 (背景・課題)

20世紀の急激な経済発展は、私たちの生活に便利で快適な住環境をもたらしたが、大量消費・大量廃棄の生き方は地球に与える負荷が大きく、次世代を生きる子ども達の未来を奪ってしまうおそれがあります。

そこで、石油で高温焼却処分している生ごみを分別収集することにより、ごみの削減、温暖化対策、有限資源である石油利用量の削減につなげたいと考えました。また、分別収集した生ごみを堆肥として再生させ、野菜をつくり、循環型社会を目指したいと思います。

事業内容

○生ごみ分別収集のモデル事業

一昨年より継続してきた生ごみ分別収集のモデル地区実施が7月より559世帯で開始しました。

生ごみ分別によってできた堆肥を使って、花や野菜を育てました。

11/22 志學館大学银杏祭シンポジウム

「心の通い合う地域社会の創生を目指して」

講師：NPO法人はちがめプラン

理事長 福田 俊明氏

参加者 40名

1/26 住民説明会(中道公民館)参加者 16名

2/4 住民説明会()参加者 27名

2/18 住民説明会()参加者 10名

2/19 勉強会「生ごみ堆肥化運動を超えて自治会活動を考える」

講師：NPO法人はちがめプラン

理事長 福田 俊明氏

参加者 40名(宮内公民館)

2/25 住民説明会(中道公民館)参加者 15名

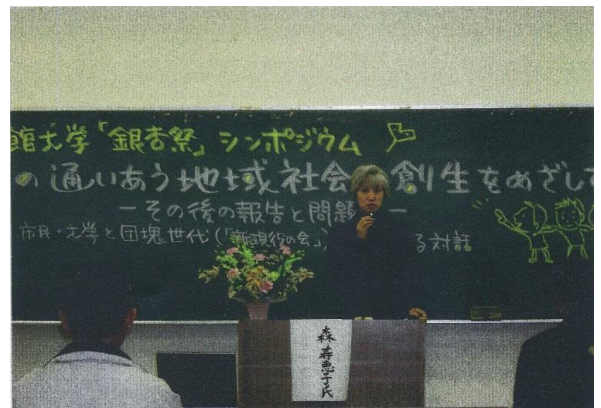


<平成 21 年 7 月 26 日南日本新聞>

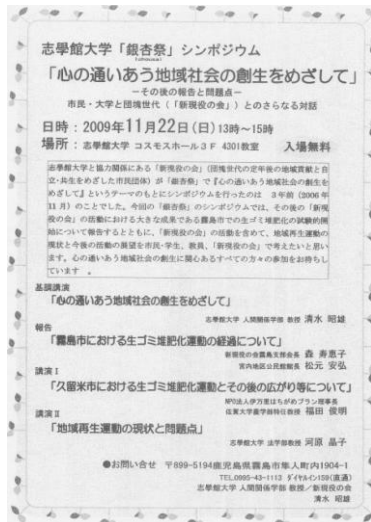
事業の成果

生ごみ堆肥を使ったことにより、生ごみを投入したコンポストの臭いや虫が激減し、また、そのコンポストでできた生ごみ堆肥を使って育てた花が冬を越しても咲き続け、生ごみ堆肥を使っていないものよりも丈夫であることが判明しました。

さらに、平成 22 年度から、生ごみ分別収集モデル地区が霧島市一円に拡大しました。



<志學館大学银杏祭シンポジウム>



シンポジウムチラシ



新現役の会チラシ

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
特にありませんでした。
3. 予算執行
(大きな変更を余儀なくされました)
講師と学校の日程調整ができずに、環境教育を実施できませんでした。
4. 今後の展望
エコプロジェクトで目指した市が行う分別収集は一応のめどがついているので、今後は住民自治の意識を高めるための方策を考えていきたいと思います。
5. その他
中道地区住民、行政、新現役の会による反省会で、住民から自分たちが出した生ごみで作られた堆肥を使いたいという意見がありました。今後、堆肥の製作会社と住民の話し合いの場を設ける方法を考えていきたいと思います。

団体情報

〈団体名〉新現役の会 霧島支部
 〈代表者〉森 寿恵子
 〈設立日〉平成 18 年 3 月
 〈会員数〉16 人
 〈主な活動内容〉

- ・ 団塊世代の交流活動
- ・ 花植え活動
- ・ 生ごみの分別収集の普及活動

〈連絡先〉

所在地 〒899-5102
 霧島市隼人町真孝 784
 TEL 0995-43-0090 (FAX 兼用)

平成 21 年度 霧島市市民活動支援事業募集要項 (抜粋)

1 趣旨

近年、市民ニーズが複雑・多様化している中で、さまざまな市民グループが地域の課題の解決やよりよい市民生活の実現のために、自主的・自立的に活動を行っている。こうした市民グループが行う公益的(公共的)な活動に対して、その経費の一部を補助することにより、市民活動を促進し、共生・協働のまちづくりを進めるために、平成 20 年度から実施。

2 応募できる団体

ボランティア団体、NPO法人などの市民グループ (法人格の有無は問わない)
(主たる構成員が市内在住者等で、5人以上の団体。地区自治公民館・自治会は対象外)

3 補助対象となる事業

公益的(公共的)なサービスを提供する市民グループの活動
(これまでの活動を拡充する活動、新たに実施する活動)

4 補助額

補助対象経費の3分の2以内で、50万円を限度

5 補助の対象となる経費

事業を実施するために直接必要とする経費

6 審査・選考方法

書類審査とプレゼンテーション(事業計画発表)による選考審査会を開催し、決定。

7 審査基準

- (1) 公益性
事業の効果が、特定の者に限定されず、地域社会にひろく貢献するものであるか。
- (2) 地域社会における必要性(課題解決性)
地域社会の課題を的確に捉え、また、市民ニーズに対応し、その解決策として有効か。
- (3) 先駆性・創造性
応募団体の既存事業を発展・拡充するもの又は新たに実施するものであるか。また、迅速性・専門性など特性を活かしたものであるか。
- (4) 実現性
事業計画や実施体制は、具体的で実現可能なものであるか。
- (5) 将来性
活動・効果が一過性でなく継続性が期待できるか。また、ひろく波及効果が期待できるか。

8 事業スケジュール

平成 21 年 5 月 15 日	募集期限
6 月上旬予定	書類審査(一次審査)
6 月下旬予定	プレゼンテーション審査(二次審査)
6 月下旬予定	選考結果発表
7 月予定～翌年 2 月末	事業実施
平成 22 年 4 月予定	意見交換会

9 情報公開

応募状況、選考結果等について、公開

平成 21 年度 霧島市市民活動支援事業 応募・採択内訳

1 選考審査の結果

区 分	応 募	採 択
団 体 数	19 団体	17 団体
N P O 法 人	9 団体	7 団体
その他の団体	10 団体	10 団体
事 業 数	19 事業	17 事業
補 助 希 望 額	6,061,000 円	4,313,000 円

2 分野別内訳

分 野 別	応 募	採 択
保健・医療・福祉	5	5
社会教育	2	1
まちづくり	4	4
学術・文化・芸術・スポーツ	1	1
環境保全	5	5
子どもの健全育成	1	1
消費者保護	1	0
合 計	19	17

平成 21 年度 霧島市市民活動支援事業 実施結果

	分野	団体名	事業名	事業概要	補助額(円)
1	子どもの健全育成	特定非営利活動法人霧島食育研究会	地産地消－霧島地野菜活用食育事業	霧島の地野菜・山菜等の食材を活用した「霧島地野菜料理教室」「霧島地野菜ワークショップ」を実施し、郷土料理レシピ集を作成・配付する。	420,000
2	子どもの健全育成	霧島市児童クラブ連絡会	第2回「きりしま学童こどもまつり」	市内の各学童の子どもたちが一堂に集まり、親睦交流・スポーツを通じて、楽しさを共有することでつながりを確かなものにするともに、市民に学童保育への理解を深めてもらう。	300,000
3	環境保全	水の会	竹山ダム周辺の環境整備と文化活動	竹山ダム周辺を文化活動の実践道場として、水辺環境整備や水を考える講演会開催を通し、「水への感謝」を表現する。	200,000
4	子どもの健全育成	きりしま・国分子ども劇場	子どもに関わる大人のためのコミュニケーションワークショップ事業	”子どもに関わる大人”という視点で、インプロ(即興演劇)のトレーニング手法を用い、大人のコミュニケーション能力の向上を図るワークショップを開催する。	150,000
5	まちづくり	大隅横川駅保存活用実行委員会	大隅横川駅活性化事業	国の登録有形文化財である九州最古の木造駅舎大隅横川駅で、平和の発信地としての平和コンサートやひな祭りイベントを開催する。また、昨年度作成したウォーキングマップを増刷する。	182,000
6	保健・医療・福祉	特定非営利活動法人ワーカーズユープ 国分支部	市民が協働する子育て支援地域づくり事業(略称:協働子育て事業)	子育てイベントの定期開催と学校行事の一時保育(母親同士の自主活動)の支援を行い、子育て支援への市民協働意識の高揚を図る。	243,000
7	環境保全	特定非営利活動法人霧島サンバイオ	霧島自然再生プロジェクト	自然保護とシカの適正頭数のあり方や今後の活用方法について、地域住民と共に学習会を重ね、市民向けにフォーラムを開催し、自然環境保全の意識啓発を図る。	300,000
8	環境保全	霧島ふるさと命の森をつくる会	ふるさと自然林再生活動	霧島の貴重な自然の保護・保全と再生に向け、ふるさとの木によるふるさとの森を再生するため、鎮守の森や霧島山系の自然林の再生活動、子ども環境学習、高齢者どんぐり苗床管理事業を行う。	500,000
9	学術・文化・芸術・スポーツ	はやと創造舞台	自主ミュージカル公演事業	市民に芸術を身近に感じてもらい、文化の薫り高い霧島市の発展に寄与するため、市民による自作・自演のミュージカル公演を行う。	184,000
10	保健・医療・福祉	特定非営利活動法人 Ryouiku Circle はなはな	アート&アグリで make confidence	在宅で生活する障がい者を対象に、絵画や音楽の学習機会と農業体験の場を提供する。	300,000
11	保健・医療・福祉	特定非営利活動法人 NPOつくしの家	様々な人々が集い豊かな時を創る事業	「豊かな時を創る」ことを支援するため、陶芸・紙漉きなどの体験の場を提供する。	200,000

	分野	団体名	事業名	事業概要	補助額(円)
12	まちづくり	特定非営利活動法人 霧島市への移住応援 協会	移住者の地域コミュニティへの参加を支援する 事業	移住者が地域コミュニティにとけ込める橋渡しを行うサービスを提供する。	100,000
13	まちづくり	ウイメンズ隼人	初午祭造形うま祭り	造形の知識やテクニックを学ぶため講座を開催し、初午祭当日の初午祭造形うま祭りを盛り上げる。	100,000
14	まちづくり	ふるさと霧島夏祭り'09 実行委員会	ふるさと霧島夏祭り HP 作成 きりしま検定クイズ web 公開事業	霧島の自然、神話、歴史、観光、産業、教育、文化などをテーマにしたふるさと検定クイズの本「きりしま検定本」を web 公開し、霧島の魅力を全国に発信する。	219,000
15	環境保全	特定非営利活動法人 NPO しきね	美しい湧水の郷再生事業	未処理の生活排水が川・用水路・側溝から錦江湾へ直接流入する敷根地区の水環境の現状を、子どもと大人と一緒に調査・把握し、水質改善に取り組むことにより、美しい湧水の郷を再生する。	300,000
16	保健・医療・福祉	霧島心肺蘇生の会	霧島市民に心肺蘇生・ AED を普及する事業	心肺停止患者を蘇生し社会復帰させるため、市民向けに心肺蘇生・半自動除細動器(AED)を啓発することと、その技術習得の講習会を開催する。	487,000
17	環境保全	新現役の会 霧島支部	新現役の会エコプロジェクト	持続可能な社会を目指して、生ごみを使用した堆肥づくりの研究と環境問題(地球温暖化)の啓発活動を行う。	64,000
合 計					4,249,000

平成21年度
霧島市市民活動支援事業成果報告書

平成22年12月

霧島市役所 企画部 共生協働推進課

〒899-4394 霧島市国分中央三丁目45番1号

TEL 0995-64-0988 (直通)

FAX 0995-47-2522

E-mail kyodo@city-kirishima.jp